



藤沢東ロータリークラブ 週報

2016~2017 Rotary Club of Fujisawa East



人類に
奉仕する
ロータリー

- 会長/石田能治 幹事/林葉之 例会/毎週火曜日 12:30~13:30
- 事務所/藤沢市南藤沢 4-2 吉田ビル 5階 TEL 0466-41-9191 FAX 0466-41-9192
- 例会場/湘南クリスタルホテル藤沢市南藤沢 14-1 TEL0466-28-2111 FAX0466-28-2126

ROTARY SERVING HUMANITY



第 1973 回例会 2017 年 5 月 16 日 (火) (天候) 晴れ No.40

点鐘 開会 クリスタルホテル5F「ボンヌ・チャンス」
Bonne Chance

ロータリーソング: 「奉仕の理想」

ゲスト・スピーカー

佐藤静代 様 (NPO 法人 ICA 文化事業協会)

ゲスト紹介塚本様 (NPO 法人 ICA 文化事業協会)

ピジター なし

バナー交換報告

会食・懇談

-会長報告-

- ・先日親睦委員長より案内ありました、第3グループ合同親睦会ですが、19(金)新堀ギターLIVE館にてカラオケ大会を行います。当クラブから8名参加で、全体では78名参加と聞いております。会長幹事会でもこの話題でした。皆さん、よろしくお願ひします。

-表彰&特別挨拶- なし

-幹事報告-

- ・17-18年度 地区補助金支給クラブ説明会が開催されます。5月16日(火)16:00~
場所: 第一相澤ビル6階「会議室」
次年度会長・幹事、梶浦社会奉仕委員長
- ・地区「新会員の集い」が開催されます。
日時: 5月20日(土) 17:00開演
場所: 藤沢商工会館「ミナパーク」会議室
参加者: 竹澤会員、徳山会員、片倉会員
- ・クラブ幹事・クラブ事務局研修が開催されます。日時: 6月3日(土) 13:30~16:30
場所: 第一相澤ビル2・8階
(事務局研修のみ6/10(土)に変更あり)
- ・次年度会員増強・会員維持セミナーが開催されます。6月5日(月)15:30~17:00
場所: アイクロス湘南

出席報告

例会月日	総員(名)	出席(名)	欠席(名)	出席率(%)	メークアップ(名)	修正出席率
4月25日	33(31)	23	9	71.88		
5月16日	33(32)	19	14	59.38		

- ・次年度に向けて、新しいクラブ手帳を作成しますので、回覧の原稿にチェック等をお願いします。

- ・今年度の活動報告書を事務局より展開しますので、委員長各位は5月末迄に事務局へ提出願ひます。6/20のクラブ協議会にて発表。

-委員会報告-

- ・合同親睦会について水川親睦委員長
- ・出席報告 鈴木利雄出席委員長
- ・スマイル報告 田中繁運営管理委員長

-会員&配偶者誕生日-

会員誕生日 狩野圭司 会員
石井 博 会員

配偶者誕生日 なし

-卓話- クラブ協議会

「ケニア国での一緑運動について」

佐藤静代様

(NPO 法人 ICA 文化事業協会理事長)

点鐘

閉会



-スマイル-

田中繁クラブ運営管理委員長



【石田能治 会長】

佐藤様、本日の卓話よろしくお願い致します。

【林葉之 幹事】

佐藤理事長様、本日はようこそ藤沢東ロータリークラブへ。本日の卓話、楽しみにしております。宜しくお願い致します

【狩野圭司 会員】

今月20日、おかげ様にて米寿を迎える事になります。これからも宜敷くお願いします。

【石井 博 会員】

このたび、お誕生日のお祝いをさせていただき大変ありがとうございます。今後ともよろしくお願い致します。

【横田佳代子 会員】

ICA の佐藤理事長様、塚本様、ようこそおいで下さいました。ケニアの一緑運動でのご活躍ありがとうございました。300 本から始まった植樹が10,000 本になる予定です。点滴かんがいも出来、地球環境基金の御協力も頂きました。

【吉田新一 会員】

佐藤様、御多忙中、本日の卓話、よろしくお願い致します。

-委員会報告-

合同親睦会開催について 水川親睦委員長



「先週もご案内しました5/19金に藤沢8クラブの合同親睦会（カラオケ大会）を開催致します。あと3名ほど募集しておりますの。御多忙中、よろしくお願い致します。」

-会員誕生日-

詩吟と演歌を披露。

石井博会員



♪山よ！山よ お岩木山よ ♪
あの娘のかわりに 聞いてくれ ♪
男の山には 道などないが ♪
歩いたところが 道になる ♪
(三山ひろし「お岩木山」)

狩野圭司会員



「米寿を迎えます！」

-卓話者紹介-

横田佳代子 会員



「ICA の佐藤様の作成した本です。会長は橋本元総理の奥様です。1998 年から始まりました。設立当初から事務局長として活躍されております。2014 年に橋本様が引退された後を継いで世界中でボランティアを行っております。佐藤様は自ら現地へ行き、実際に活動をされております。」

ケニア国での一緑運動について

佐藤静代様 (NPO 法人 ICA 文化事業協会)



横田様、ご紹介頂きましてありがとうございます。また御二方、誕生日おめでとうございます。「人生に道はないが、歩いたところが道になる」との歌に、私も73歳になりまして感じるところがございます

ケニアの一緑運動とは、2014年からスタートした活動でもあります。本当に「一人の子どもが1本の木を植える」という考えが他のことにも波及しておりますので、今日は2つご紹介させて頂きたいと思っております。

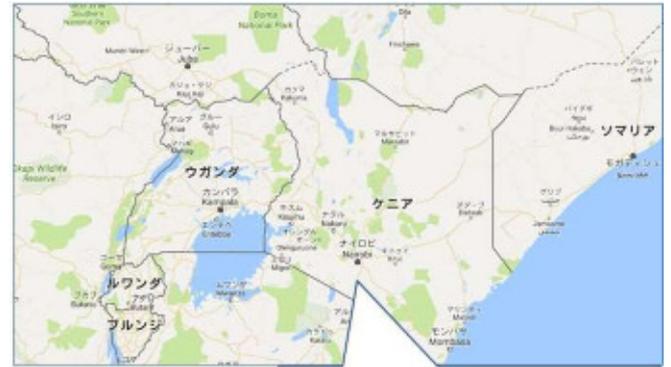
まず、なぜこの活動をする事になったのかといえますと、1万年前までは全世界で100万人程の人口でした。今世紀の終わり頃には100億人に達するというふうにいわれております。人口が増加すると必然的に食糧問題が起きてきます。それから環境問題、そして土地の奪い合い、砂漠化または気候変動問題、水問題、エネルギー問題、そして健康、ひいては平和にも関わってくるということで、本当に私たちは身を引き締めて生きていかなければならないと思っております。

実際にはアフリカではこのような問題が先行しておいております。1日1.5ドル未満で暮らしている人たちが1980年には2億人だったのですが、今も増えており、2008年段階では約3億人です。貧しい人たちの3分の一がアフリカに集まっている状況です。世界の縮図です。

これはマサイ族です。マサイ族はケニアの南部からタンザニアにかけて住む先住民族です。ケニアで最も古い先住民族で、人口は20万から30万人

といわれております。

本来は牛、羊ヤギなどを放牧して暮らしていて牛が財産であり、牛を多く所有している人は何人でも妻を娶ることができます。そして主食は牛乳の牛の生血です。最近ではチャパティや米なども採れるようになりました。



Google map



マサイ族が住んでいるところはナイロビから南西に車で約1時間くらいのところです。

「一緑運動」というのは2014年に始めました。干ばつに強いニームとかサバンナアカシア、バラニテス等計200本植えました。目的は、「木の大切さを子供たちが学び、継続的に植林を行うことができるように、学校の課外授業として父兄や教師も参加して植林する。」ことです。

木を植えて環境を守ることは、「知恵を育み、健康を維持し、心の平和を築く」ことに繋がります。

ケニアではイシニアの農業省と一緒に活動サポートして貰っています。まず2014年にはエンピヤカット村、オレンコティラ小学校 (Empyikat, Olenkotila School) の児童200人と共に植林しました。

2015年にはエンキリギリ小学校で植林を行いました。420名の生徒がいます。児童は全員マサイ族です。ここでは、ジャポニカ (Japonica) を植林しました。去年は国家試験でイシニア地区で2位になりました。先生や父兄も一緒になって行いました。学校運営もコミュニティとステークホルダーの連携が良くとれているところです。

寄宿舎生活をする子どもたちが多い。両親が家畜を追って放牧をするので、その間子どもたちはここで寝泊まりしながら勉強をしています。ケニアでは良くあることです。

植林が終わった後に灌漑施設を設置し、直射日光を避けるために、苗木をカバーしたり工夫しています。

植林の際には、植える前に何故植林が必要かを説明して、子供たちが植林に意義があることを感じて貰っています。子どもたちは一人ひとり自分の木をもって植えていきます。校長先生も子どもたちと一緒に植林します。

木がもたらすメリットとしては、「空気の浄化、温室効果ガスを除去、紫外線からの保護、土壌汚染を防ぐ、食物の提供、癒しの提供、木材の提供等々の様々な効果があります。

私たちが植えているのは「ニーム」という木でございます。耐乾性があり、熱帯低地であればどこでも生育可能です。そして防虫効果もあります、農薬としても使えます。マキとしても使え、ランプの油も採ることができます。また医薬品にもなります。アフリカでは非常に貴重な木です。



NPO 法人 ICA 文化事業協会ホームページより



それからサルバドールという木です。それも耐乾性があり、「歯ブラシの木」とも言われて歯ブラシとして使用できます。

また、「モリンガ」の木があります。「ミラクルツリー」(奇跡の木)、「メディシンボックスツリー」

(薬箱の木) とか「ツリーフォーライフ」(生命の木) などとされています。全く無駄がない植物で、生命力が強く、成長が速い木です。根、葉、枝、幹全てが利用できて、その花や種までも利用できます。

子どもたちは今度は野菜をつくりたい、との希望をもってます。野菜をつくったことがないので興味深々です。

植林からの食糧、野菜からの食糧を目指して今後も活動をして参ります。

ケニアでの活動を皆様にご覧いただきたくて本日は話をさせて頂きました。

ありがとうございました。



NPO 法人 ICA 文化事業協会ホームページより

ケニアも干ばつ、食料不足、水不足に直面しています。ケニアの全土地面積 5,804 万 ha のうちのたった 6% しか森林面積がありません。人口は 4,275 万人で赤道直下に位置し、熱帯サバンナ気候です。イシニア郡はナイロビから南西 70km にあり、現在も厳しい干ばつが続いています。狩猟民族であるマサイ族は、これまで木を植えたことがなく、家畜の過放牧で砂漠化が始まり、水や食料が不足、ようやく植林が必要であるという意識が高まってきました。(NPO 法人 ICA 文化事業協会ホームページより)



一 緑 運 動

2014年～2015年ケニア国イシニア地区エンピヤカット村

実施日：2015年2月27日～2015年11月1日

支援機関：国際自由宗教婦人連盟(IALRW)

(International Association for Liberal Religions Women)

「そこに住んでいる住民が、その地域の専門家」という認識に基づき、住民の為に人間開発を目的とした研修プログラムや能力開発に焦点を当て、環境に配慮した持続可能なコミュニティ開発を目指します。ICA Japan

NPO 法人 ICA 文化事業協会ホームページより